

参加団体紹介

現在、区内で活動している次の10団体が、各イベントで港北芸術祭に参加をしています。

団体名（五十音順）	参加イベント
大倉山秋の芸術祭実行委員会	大倉山秋の芸術祭
港北区合唱の会	港北区合唱の集い
港北区民交響楽団	夏休み親子コンサート、オーケストラ体験教室、港北シンフォニーコンサート
港北区民ミュージカル実行委員会	港北区民ミュージカル
港北芸能協会	港北芸能大会
港北三曲会	さわってみよう！箏・尺八、港北三曲会演奏会
港北第九合唱実行委員会	こうほく第九演奏会
港北ダンス芸術振興協会	港北ダンスフェスティバル
港北童謡の会	ニューイヤーコンサート
横浜港北区民吹奏楽団	ウインターコンサート

港北芸術祭に参加していただいている団体を、質問にお答えいただく形式でご紹介します。
質問項目は次のとおりです。

- ①活動内容・実績 ②港北芸術祭とのかかわり ③活動する上でのやりがい ④港北区内で活動することへの思い
- ⑤港北芸術祭へのメッセージ

大倉山秋の芸術祭実行委員会

- 昭和60年秋、横浜市大倉山記念館利用者ボランティアが集い、「大倉山秋の芸術祭」を立ち上げました。以来、一度も休まず今年33回目を迎え、利用者による音楽などのライブと美術展を館内で同時に開催しています。
- 港北芸術祭が発足した当初から支援を受け、元気づけられてきました。
- 実行委員会の一員として、出演・出品する方、鑑賞に来られる方から、ともに期待されている手応えを、15年来お願しているアンケートから感じています。
- 大都会の真ん中なのに特異な大倉山記念館の環境は、動・静ともに芸術心のフレッシュアップを図るには最適だと思っています。
- 港北芸術祭25周年おめでとうございます。交通革新が進行中の港北区は、人の往来が更に頻繁になることでしょう。これを逆手に取り、質の高い文化芸術の担い手を呼び込み、区民が気軽にこれを鑑賞できる機会を提供する活動を続けていただきたいと思います。



港北区合唱の会

- 平成21年に発足し、港北区合唱指揮者協会と協力しながら年1回「港北区合唱の集い」を開催することが主な活動です。「集い」は港北区内で活動する合唱団の発表の場となっているほか、毎年一般公募の大合唱団「KOHOKUスペシャルクワイヤー」の演奏の場でもあります。
- 港北区役所主催で行われていた「港北区コーラスの集い」（現在の「港北区合唱の集い」の前身）の頃から、毎年参加をさせていただいています。
- 発表の場を作ることで、港北区全域の合唱団との交流、地域の方々との親睦を深めることができるということが会の意義だと思っています。参加者から楽しかったという声をいただいた時に、やりがいを感じます。
- 個々の合唱団の発表の場であることに留まらず、区内から一般公募した詩に曲を付けて港北の愛唱歌を作ったり、誰でも参加できるクワイヤーを企画したりと、港北区全体を巻き込んだ楽しいイベントにしたいという思いで活動しています。
- 毎年色々な催し物を企画してくださり、あらゆる分野の芸術を身近に体感できることは、素晴らしいことだと思います。今後も区民の生活の近くで、様々な方の活動を見られることを期待しています。



クワイヤーの演奏の様子

港北区民交響楽団

- 昭和61年に区の呼び掛けもあり、楽器の演奏をする者が集まり港北区民交響楽団として発足、活動を開始しました。現在の在籍者数は80名にわたり、年に2回の定期演奏会と夏休み親子コンサート等を開催しています。
- 平成10年に横浜みなとみらいホールで開催された定期演奏会を「港北シンフォニーコンサート」と称し、正式に港北芸術祭に参加しました。それ以来、全ての演奏会と区役所との共催の体験教室でも港北芸術祭に参加をさせていただいています。
- 演奏する際に、団員一人一人の練習の苦勞が報われたという達成感もありますが、やはり演奏会に来場していただいたお客様から心からの拍手をいただいた時や、感激したという熱いお言葉を頂戴した時に一番やりがいを感じます。
- 創立当初と違い団員の半数近くが港北区外からの参加者になりつつある昨今ですが、創立から30年を経過し港北区に定着したオーケストラの中で、かつ音楽に熱心な区民の前で演奏できる喜びと誇りを感じています。
- 港北芸術祭25周年、心よりお祝い申し上げます。今後も、区民にとって身近な場所で質の高い文化芸術に接する機会を与え続けていただきたいと思います。私共港北区民交響楽団も、定期演奏会、夏休み親子コンサート、オーケストラ体験教室等を通じて、従来にも増して地元港北区の音楽文化に少しでも貢献できるよう、団員一丸となって頑張りたいと思います。



港北芸能協会

- 昭和53年に港北区が主催する事業協力団体として、区役所主導で区内民謡・舞踊ほか35団体約1,300人で港北区民芸能協会を設立しました。その後、会名を港北芸能協会と改め、現在は10団体200～300人が所属しています。年2回港北芸能協会大会を開催し、春は協会の大会、秋は出演者を区民から公募して開催しています。
- 「港北芸能協会秋季大会」にて第1回目の港北芸術祭より参加しています。
- 観客の笑顔と歓声がやりがいです。文化の向上とファンのために、今後も活動を続けていきたいと思っています。
- 港北芸能協会は、区内在住の芸能団体（舞踊・民謡・詩吟ほか10名以上）は参加することができます。区民相互の連帯と親睦を図り、伝統芸能の発展と未来に繋いでいくという使命を全うし、港北区の文化振興に貢献するべく、これからも活動を続けていきます。
- 港北芸術祭25周年おめでとうございます。これからも、港北区の文化の発掘と振興に目を向けていただきたいと思います。港北芸術祭の今後ますますのご発展を祈念申し上げます。



港北区民ミュージカル実行委員会

- 平成15年4月、青少年育成と地域文化の活性化を願い、設立しました。地域的话题を題材に、地域に根ざした演劇作りをしています。出演者として9歳から80歳代までの幅広い年齢層の方が参加し、年に1回発表公演を行っています。
- 平成25年、港北区民ミュージカルVol.15「凍れば凍るとき凍れ」から今年度まで参加しています。
- 港北区の歴史や話題を題材にして、身近だけど知らないお話をお客様喜んでいただいています。また、出演している子どもたちが、学校を卒業した後に俳優として活躍している姿を見ることにも、とてもやりがいを感じます。
- 出演者のほとんどが港北区出身です。今までの14回の公演で、延べ出演者数が707人、延べ観劇者数が18,937人になりました。これからもこの数を更新して、港北区民すべてに観劇に来ていただくのが目標です。
- 港北芸術祭25周年おめでとうございます。港北区は東横線が縦断していることにより、少し足を延ばせば様々な文化芸術に触れる機会がたくさんある土地柄ですが、区外に出ることなく質の良い文化芸術に身近に接することのできる場を提供することは素晴らしいことだと思います。これからもその活動を続けていただきたいと思います。



港北三曲会

- 年に一度の定期演奏会のほか、隔年で催されるチャリティコンサート、年間10校近い数の学校公演、さらに一般の方のためのワークショップ「さわってみよう！箏・尺八」等を実施しています。
- 初期には一般公演としての主催事業に参加をさせていただいていましたが、現在では地元参加の事業として毎年秋に催される定期演奏会とワークショップ「さわってみよう！箏・尺八」を担当しています。
- 一般のプライベートな団体として、芸術祭に参加させていただくことにより、区民の方々とのより大きな接点を持たせていただけることに、大きな感謝とやりがいを感じ、良い意味でのギブアンドテイクが成り立っていると思っています。
- 区内在住で各分野での活躍をされている区民の方は多いことと存じますが、それぞれ活動の場は限定されているケースも多いことと思います。しかし、生活をしている地元での理想的な環境作りも等しく大切であると思っています。
- 私事となりますが、図らずも昨年「港北三曲会」が第二回港北区民表彰を頂戴しました。港北区民として、この上もない感謝を申し上げたく存じます。これからも、この芸術祭のために貢献をされた団体、あるいは個人の方々もそのこと自体が区民・区政全体への貢献であるとの評価をされました場合には、それ相応の評価をしていただくことが今後の区の発展にも繋がるのではないかと考えております。



港北第九合唱実行委員会

- ①平成22年11月に綱島で発足。翌年からは約半年間練習をして、年末に1回「こうほく第九演奏会」を開催しています。区からも補助金をいただき、「継続は力なり」を目標に掲げ、現在は8回目の演奏会に向けて特訓中です。
- ②平成24年度より港北公会堂での演奏会から、港北芸術祭に参加しています。チラシにロゴを載せて、区の広報などでPRをしていただくことで、年々観客も増えチケット完売・満員御礼状態です。大変感謝しています。
- ③100名近い合唱の愛好者が集い、「第九」を練習。難曲に挑戦してくじけることもあります。良き指導者に恵まれ仲間同士励まし合って、楽しく歌っています。発声は健康にもいいので、やりがい=生きがいでしょう。
- ④参加者は港北区民と高齢者が多いです。練習拠点の綱島地区センター、発表会場の港北公会堂と、交通の便が良いのは気軽に参加ができると大変好評です。わがまち“港北”に対する愛着が一層増すようです。
- ⑤港北芸術祭が四半世紀を歩んできたこと、大変素晴らしい！その仲間に加わり、いつも温かい支援をいただいています。ジャンルは様々ですが、良質な芸術に触れる瞬間、人は幸福な気持ちになります。「第九」を聴いて笑顔になる人たちが証明してくれます。文化の薫り高い祝典「港北芸術祭」が、今後とも私たちを牽引し続けてくださることを切望しています。



港北童謡の会

- ①平成16年に産声をあげた「港北童謡の会」。平成18年からは毎月1回の開催となり、先生のご指導で毎回200名を超える参加者がのびのびと歌うことを楽しんでいます。歌詞や予定を載せたプログラムも好評です。
- ②毎年1月に特別ゲストをお招きして「ニューイヤーコンサート」を開催しており、平成25年から港北芸術祭に仲間入りさせていただきました。来年1月は、ポニージャックスの皆様をお招きする予定です。
- ③参加された方々がお帰りになる時に生き生きとした表情で「楽しかった」「またね」「ありがとう」と声を掛けてくださいます。そうした姿に触れる時、喜びとやりがいを感じます。
- ④港北区が文化芸術の薫り高い街であるよう願っております。楽しみながら、地域のために活動を続けられることに感謝し、息長く続けていきたいと思っております。
- ⑤港北芸術祭25周年おめでとうございます。身近な場所で、質の高い文化芸術に触れることができるのは、区民にとって大変幸せなことだと思います。長年ご尽力くださった諸先生方に感謝申し上げます。未来を担う子どもたちのための鑑賞機会を増やしたり、若い芸術家を育む活動なども充実できたらと願っております。



港北ダンス芸術振興協会

- ①平成9年に区内で活動するダンスサークル・団体の発表の場として、港北ダンスフェスティバルが始まりました。これまで20回開催され、延べ396団体6,389人が出演しました。
- ②第1回港北ダンスフェスティバル(平成9年)より毎年港北芸術祭に参加しています。本年より港北ダンスフェスティバル実行委員会から港北ダンス芸術振興協会と名称を改めました。
- ③年に1度発表の場があるということで、日々の創作活動・レッスンに励み、本番当日のお客様たちの温かい拍手に励まされています。
- ④区内で活動するダンスサークル・団体の交流を深め、区のダンス芸術の向上を目指すことを大切にしています。港北ダンスフェスティバルを通じて、踊ることの楽しさを感じていただき、一人でも多くの方に参加していただければと思います。
- ⑤港北芸術祭25周年おめでとうございます。私たちにとっても区内の身近な場所で作品を発表できるのは大変嬉しいことです。港北ダンスフェスティバルが区に相応しい文化の創造の一助となるよう、これからも頑張りたいと思います。



横浜港北区民吹奏楽団

- ①昭和55年に、樽町中学校吹奏楽部のOBが集まり、「樽町中学校OB吹奏楽団」として発足。昭和61年に現在の「横浜港北区民吹奏楽団」と改称し、現在に至ります。60名近くの団員が年2回の演奏会に向け、日々練習しております。
- ②港北芸術祭の開始当初(平成5年)から、「ウインターコンサート」で毎年参加させていただいております。
- ③当団の特徴として、団員の知り合いではない一般のお客様が半分以上を占めており、10年以上毎回来ていただいている方もいらっしゃいます。その方々からの温かい応援をいただいた時は、いつも大変励みになります。
- ④お客様の大半が港北区内在住で、チラシや広報をご覧になって来ていただいております。その方への私どもの音楽をお届けすることが一番重要なことだと思っております。
- ⑤25周年おめでとうございます。港北芸術祭の歴史は私たちのウインターコンサートの歴史とほぼ重なり、気が付けばそれだけ長い間活動をしてきたのだなと改めて実感いたしました。今後も引き続き活動していただきますよう、お願いいたします。

